＜国語＞

# 伝え合う力を高める指導の工夫
## ～「話すこと・聞くこと」の領域における話し合いの技能指導を通して～

大謝名小学校教諭　多和田　晴香

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
Ⅱ　研究目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
Ⅲ　研究仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２１
Ⅳ　研究の全体構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２２
Ⅴ　研究内容
　１　伝え合う力とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２３
　２　伝え合う力を高める「話すこと・聞くこと」の目標と技能について
・・・・・・・・・２４
Ⅵ　検証授業
　１　単元名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０
　２　教材名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０
　３　単元目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０
　４　単元について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３０
　５　単元において児童に意識させる５つの視点・・・・・・・・・・　３２
　６　指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３２
　７　本時の指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３４
　８　検証授業研究会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３５
Ⅶ　仮説の検証
　１　具体仮説①の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３６
　２　具体仮説②の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３８
Ⅷ　研究の成果と今後の課題
　１　研究の成果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４０
　２　研究の課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４０
　３　おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４０

＜主な参考文献＞

〈国語〉

# 伝え合う力を高める指導の工夫
## ～「話すこと・聞くこと」の領域における話し合いの技能指導を通して～

大謝名小学校教諭　多和田　晴香

## Ⅰ　テーマ設定の理由

知識基盤社会化やグローバル化がすすむ現代においては、国際化が一層進展する中、文化、文明との共存や協力を求められる機会が増大しており、自ら主体的に判断し、行動する「生きる力」を育むことの重要性が増している。

このような社会情勢をうけ、平成20年３月に告示された「小学校学習指導要領」における国語科の目標には「伝え合う力を高める」ことが明記され、言語活動を充実させることによりその力を育成することが重視されている。また、本県学力向上主要施策「夢・にぬふぁ星プランⅡ」においても、人間関係を育む取り組みの一つとして「言葉による伝え合う力の形成」が挙げられている。人と人とがよりよい関係を形成するためには、互いの気持ちを伝え合い、互いを理解し合うことが大切である。その際、重要な媒体となるものが言葉であり伝え合う力であるといえる。すなわち、「伝え合う力」の育成は、異文化との関わりや国際社会との共存がすすむ現代社会において「生きる力」を支えるために最も重要なものの一つであると捉える。

本学級の児童のこれまでの伝え合う力を振り返ってみると、自己主張はするものの、自分の思いを言葉で分かりやすく伝えることや、互いに相手の思いを受け止めて話すというような伝え合いの力には課題がみられる。また、話す相手が複数以上になると、互いにどのような関わり方をしたら良いのかが分からず戸惑う様子も見られる。このような状況は、相手に対して自分の伝えたいことをどのように伝えたらよいかという技能や表現力に起因するものと考えられる。そこで、児童の伝え合う力を高めるために、話す技能や話を聞き取る力を身に付けさせ、児童自身が伝え合いを楽しいと感じ、伝え合うことへの意欲を持つことが大切だと考える。そのためには、話すことや聞くことのみならず、書くこととの連続性を考慮することも肝要だと考える。四年生の教材において、そのような要素を含んでいるのが、「話すこと・聞くこと」の領域における話し合いの指導である。

そこで、「話すこと・聞くこと」の領域において、相手や目的を考えて話すというような話すことにおける技能、話し手を見てうなずきながら聞くというような聞くことにおける技能などを身に付けさせる取り組みを充実させると共に、話し合いにおいて重要な司会の要領を明確にした話し合いを行わせることにより、伝え合う力が高まるであろうと考え、本テーマを設定した。

## Ⅱ　研究目標

児童が話す楽しさや意義を感じ、伝え合う力を高めるための指導の在り方を探る。

## Ⅲ　研究仮説

### 1　基本仮説

「話すこと・聞くこと」の領域において、その技能を段階的に指導することにより、話す内容や話す順序・方法などが充実し、伝えたいことが相手に理解されることで対話への自信を持つと同時に対話の楽しさを味わい、対話への意欲を持つことができ、伝え合う力が高まるであろう。

#### (1)　具体仮説

①　話し合いにおける話し方や聞き方などの技能を身に付ける取り組みを充実させることにより、その技能を生かして自分なりの考えを伝えることができるようになり、伝え合う力が高まるであろう。

②　身に付けた技能を生かして自分なりの考えを伝えたり、多様な交流を通して仲間と学び合ったりすることにより、伝え合うことの喜びや楽しさを感じることができるようになり、伝え合うことへの意欲が高まるであろう。

## Ⅳ　研究の全体構想図

**教育関係法規**
日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
県の教育施策
市の教育施策

**学校教育目標**
・思いやりのある子
・よく考えて行動する子
・最後までがんばる子

**目指す児童像**
・自分の思いや考えを分かりやすく話せる子
・相手の思いを受け止めながらしっかりと聞き、自分の考えを話せる子

**国語科の目標**
国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

**「話すこと・聞くこと」の目標（中学年）**
相手や目的に応じ、調べたことなどについて筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫しながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

**研究テーマ**
伝え合う力を高める指導の工夫
～「話すこと・聞くこと」の領域における話し合いの技能指導を通して～

**児童の実態**
・意欲的に発表できる子が多い
・意見を出し合う中で高め合うという話し合いの力に課題がみられる

**研究目標**
児童が話す楽しさや意義を感じ、伝え合う力を高めるための指導の在り方を探る。

**研究仮説**

1　基本仮説
「話すこと・聞くこと」の領域において、その技能を段階的に指導することにより、話す内容や話す順序・方法などが充実し、伝えたいことが相手に理解されることで対話への自信を持つと同時に対話の楽しさを味わい、対話への意欲を持つことができ、伝え合う力が高まるであろう。

(1)　具体仮説
①　話し合いにおける話し方や聞き方などの技能を身に付けさせる取り組みを充実させることにより、その技能を生かして自分なりの考えを伝えることができるようになり、伝え合う力が高まるであろう。
②　身に付けさせた技能を生かして自分なりの考えを伝えたり、交流を通して仲間と学び合ったりすることにより、伝え合うことの喜びや楽しさを感じることができるようにより、伝え合うことへの意欲が高まるであろう。

**研究内容**
1　伝え合う力について
2　伝え合う力を高める「話すこと・聞くこと」の目標と技能について

**検証授業**
計画・実践・分析・反省・考察

**研究のまとめ**
研究の成果と課題

**研究方法**
1　参考文献や資料による理論研究
2　実践事例・研究資料の収集と分析
3　児童の実態把握の調査・分析
4　検証授業の考察
5　関係する研修会への参加
6　担当指導講師による指導助言

## Ⅴ　研究内容

### 1　伝え合う力について

#### (1)　伝え合う力とは

「小学校学習指導要領解説―国語編」(文部省　平成11年)によると、「伝え合う力」とは、「人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力」であり、「人間形成に資する国語科の重要な内容となるもの」とされている。木下美和子(2006)は、伝え合う力として次の３つを示している。

①児童自身が今どのように感じているのかということを適切な言葉で表現する力
②相手の言葉を適切に受け取る力
③話し合いによってよりよい問題解決を図る力

すなわち、伝え合う力とは、他者の考えなどを正確に理解したり、自分自身の考えを適切に表現したりする上で最も重要な力であり、コミュニケーションが乏しく、人間関係が希薄化しつつある今日、豊かな人間関係を構築するために重要な能力であると捉える。また、その育成にあたっては、伝え合う力の提唱者である小森茂(1999)が「生きて働く国語の力は、自分と相手、相手と自分という人間の中でこそ育成できるものである」と述べている通り、自他の関係の上でよりよく成り立つものであり、響き合って高まるものだと考える。よって、授業実践においても、児童相互が話し合いや響き合いを行うことによる「伝え合う力」の育成となるよう工夫したい。

#### (2)　「話すこと･聞くこと」の領域の変遷

中教審答申「小学校国語科の改善の方針」によると、国語科の「A 表現」「B 理解」という２領域は、「A 表現」という領域において文章の詳細な読解の指導に偏りがちであったため、論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力を育てることを重視し、平成11年に告示された学習指導要領から「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」という３領域へと改められた(図１)。これは、平成20年に告示された学習指導要領においても継承されている。

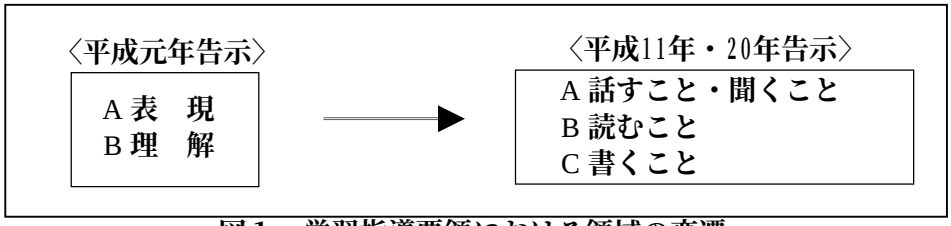



図１　学習指導要領における領域の変遷

また、「読むこと」「書くこと」の領域が独立しているのに対し、「話すこと」と「聞くこと」の領域は、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することを重視し、１領域にまとめられている(学習指導要領解説国語編－平成11年　文部省)。これは、話すことと聞くことが互いに密接な双方向の活動であることを示していると捉えられる。人が話をする際、話を聞く際、及び伝え合いを行う際には、必ず自分以外の相手の存在があり、話し手や聞き手は互いに相手の存在を意識し、その立場を尊重することが重要である。相手を意識した話し方、聞き方は伝え合う力の育成につながる。小森茂(2008)は、『「話すこと・聞くこと」の領域の内容は他の学習内容を深める方法や手だてとして埋没する傾向が見られたが、これからは「話すこと・聞くこと」の内容を目的的に指導することが重要である』と述べている。このことから伝え合う力の育成と「話すこと・聞くこと」の領域は密接な関係にあり、「伝え合う力」を高めるには、「話すこと・聞くこと」の領域を重点とした授業づくりが重要だと考える。

## 2　伝え合う力を高める「話すこと・聞くこと」の目標と技能について

### (1)　「話すこと・聞くこと」の目標

前述したように、伝え合う力の育成と「話すこと・聞くこと」の領域が密接な関係であると捉えると、学習指導要領における「話すこと・聞くこと」の目標に迫ることが伝え合う力を高めることにつながると考えられる。「話すこと・聞くこと」の領域の目標は「話す能力」「聞く能力」「話し合う能力」に分けて構成されている。「話す能力」「聞く能力」という別々の能力だけでなく、「話し合う能力」という双方向の能力が示されていることから、すなわち、それは、伝え合う力を高める技能であると捉えることができる。なお、これらの目標は、児童の発達段階を考慮しつつ学校や児童の実態に応じて指導内容を重点化し定着を図るという観点から、二学年まとめて示されている。

また、伝え合う力を高める技能は「話すこと・聞くこと」に関わる一つ一つの技能も重要であると共に、それらを関係づけて相対的によりよく伝えていくという技能にまで発展させることも重要であると考えられる。本研究の授業における技能指導においては、これら一つ一つを丁寧に指導するとともに、「話すこと・聞くこと」の相互関係の視点に立ち、自分の考えを伝えることや相手の言いたいことを理解できる力へと高めることを目指す。伝え合う力を育む具体的な視点を得るため、「学習指導要領解説国語編」(文科省　平成20年)に明記されている「話すこと・聞くこと」の目標と構成要素を照らし合わせ、以下の表を作成した(表１)。

表１　各学年における「A 話すこと・聞くこと」の目標

| | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|---|---|---|---|
| | 相手に応じ、身近なことなどについて | 相手や目的に応じ、調べたことなどについて | 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて |
| 話す能力 | 事柄の順序を考えながら話す能力を育てる | 筋道を立てて話す能力を育てる | 的確に話す能力を育てる |
| 聞く能力 | 大事なことを落とさないように聞く能力を育てる | 話の中心に気を付けて聞く能力を育てる | 相手の意図をつかみながら聞く能力を育てる |
| 話し合う能力 | 話題にそってし合う能力を育てる | 進行に沿って話し合う能力を育てる | 計画的に話し合う能力を育てる |
| 話すこと・聞くこと全体にわたる態度 | 進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる | 工夫しながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる | 適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる |

上記の目標をふまえ、「伝え合う力」を高める授業をすすめたい。

### (2)　「話すこと･聞くこと」の内容

学習指導要領における本領域の目標が伝え合う力を高める技能であると捉えると、その内容の指導は伝え合う力を高めるために重要な意味を成す。本領域の内容は「指導事項」と「言語活動例」から構成されており、学習指導要領には学年における指導事項が具体的に明記されている。中でも「指導事項」は「話題設定や取材に関する指導事項」「話すことに関する指導事項」「聞くことに関する指導事項」「話し合うことに関する指導事項」と細かく構成されており、細かな指導が重要となる(図２)。

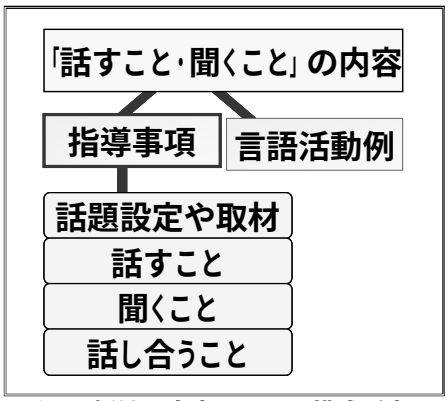


図２　領域の内容における構成要素

学習指導要領解説国語編(文科省　平成20年)によると、本領域の指導内容は「系統的・段階的に上の学年につながっていく」とともに、「螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、能力の定着を図る」ことを基本としており、本研究における授業実践においてもその系統性を重視したい。そこで、その指導内容に示されている技能を明確にするため、学習指導要領解説国語編(文科省　平成20年)に明記されている「話すこと・聞くこと」の指導事項と各構成要素を参考に以下の表を作成した(表２)。これらのことを参考に話すことや聞くことにおける技能や留意事項について整理を行い、「伝え合う力」を高める授業をすすめたい。

表２　各学年における「A 話すこと・聞くこと」の指導事項

| | | 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|---|---|---|---|---|
| 話題設定や取材に関する指導事項 | 話題設定 | ・身近なことや経験したことから話題を決める。 | ・関心のあることなどから話題を決める。 | ・考えたことや伝えたいことなどから話題を決める。 |
| | 取材方法 | ・必要な事柄を思い出す | ・必要な事柄について調べ、要点をメモする。 | ・収集した知識や情報を関係づける。 |
| 話すことに関する指導事項 | 話すことの構成や内容 | ・相手に応じる<br>・話す事柄を順序立てる | ・相手や目的に応じる<br>・理由や事例などを挙げながら筋道を立てる。 | ・目的や意図に応じる。<br>・事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫する。 |
| | 話す時の言葉遣い | ・丁寧な言葉と普通のことば違いに気をつけて話す。 | ・丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話す | ・場に応じた適切な言葉遣いで話す。 |
| | 音声 | ・姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意する。<br>・はっきりした発音で話す。 | ・相手を見る。<br>・言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話す。 | ・共通語と方言との違いを理解する。<br>・必要に応じて共通語で話す。 |
| 聞くことに関する指導事項 | | ・大事なことを落とさないようにする。<br>・興味をもって聞く。 | ・話の中心に気を付けて聞く。<br>・質問したり感想を述べたりする。 | ・話し手の意図をとらえながら聞く。<br>・自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。 |
| 話し合うことに関する指導事項 | | ・互いの話を集中して聞く。<br>・話題に沿って話し合う。 | ・互いの考えの共通点や相違点を考える。<br>・司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う。 | ・互いの立場や意図をはっきりとさせる。<br>・計画的に話し合う。 |

### (3) 伝え合う力を高めるための授業

伝え合う力を高めるために、その技能を育成することは大きな意義がある。技能なくして話し合い、伝え合いはできないからである。髙階玲治(2007)は、「話し合い方の指導と話す内容をどうするかの授業を区別し、前者は徹底して方法論的な指導を行う必要がある」と述べている。すなわち、伝え合う力を高める授業においてその技能指導は重要であるといえる。また、前記したように、「伝え合う力」を「豊かな人間関係を構築するために重要な能力」であると捉えると、その力を高める授業を行う際、自分の思いを一方的に述べることとの大きな違いを意識させることが重要である。すなわちその授業において児童には、何かを伝える際には必ず相手の存在があること、相手の立場を尊重し相手を理解しようとする気持ちが大切であることを意識させたい。そこで、小森茂(1999)が提唱している「伝え合う力」を高めるための構成要素をもとに、人との伝え合いを行う際、意識させたい五つの視点を図として作成した(図３)。児童は、この視点により自分の伝えたい内容をより明確にすることができると同時に、伝える相手を尊重する気持ちを持つことができると考える。

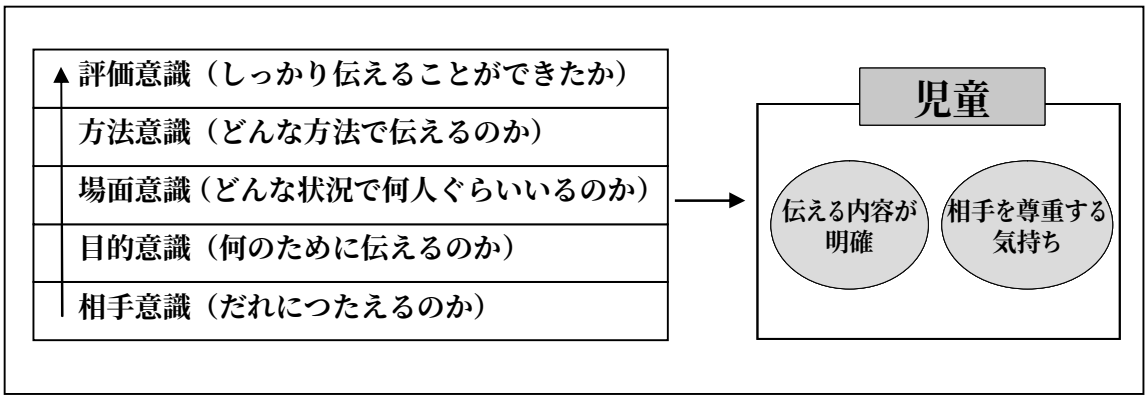



図３　授業において児童に意識させたい５つの視点

また、授業において児童が豊かな伝え合いを行うことができるかどうかは、支援者である教師が意図的に行う場の設定が大きな影響を与えるといえる。そこで、堀江祐爾(2008)の、「豊かな伝え合い・高め合いを実現するために行うべき教師の支援」を参考に作成した教師が行うべき場の設定を以下に示す(図４)。

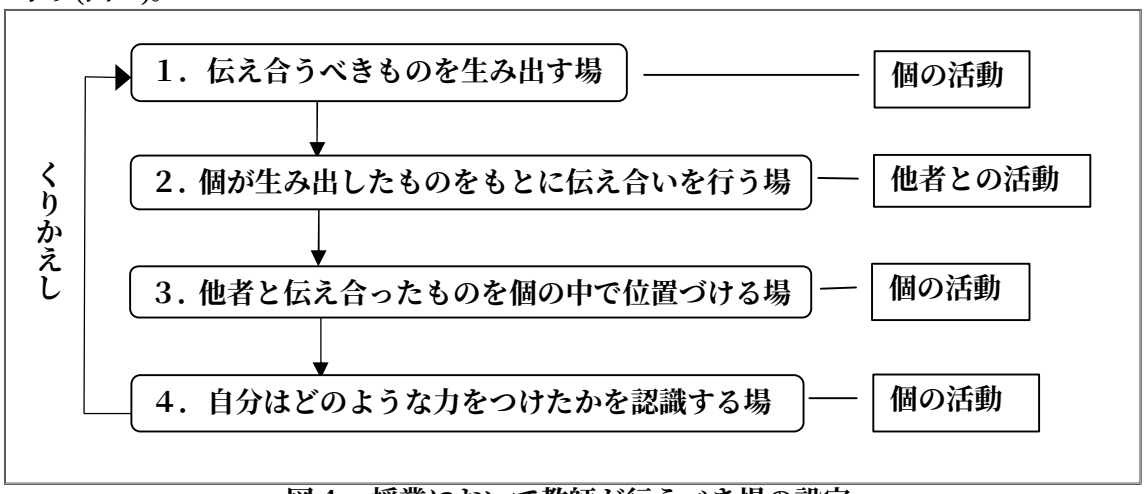



図４　授業において教師が行うべき場の設定

「伝え合う力」を高めるためには、伝え合いをした後、その伝え合いがどうだったかを児童自身が振り返ることが次の学びへとつながる。教師は、児童自身が伝え合いをしっかりと振り返ることができる場を設定し、児童は評価意識をもとに、自分の活動を振り返る。この双方の観点を明確にし、児童が互いに学び合い、響き合いながら「伝え合う力」を高める指導を行いたい。

### (4) 児童に身に付けさせたい具体的な技能

前述したように伝え合う力を高めるために、その技能を育成することは大きな意義がある。なぜなら技能なくしてよりよい話し合いや伝え合いはできないからである。髙階玲治(2007)が「話し合い方の指導と話す内容をどうするかの授業を区別し、前者は徹底して方法論的な指導を行う必要がある」と述べている。すなわち、これからの伝え合う力を育成する授業では技能指導は重要だといえる。また国語科は到達目標が示されにくいため、その技能を明確にすることは重要だと考えられる。そこで、井上一郎(2008)の「話す力・聞く力の基礎・基本を育てる―小学校―」を参考に、伝え合う力を高めるために児童につけたい技能を以下のようにまとめた。

**伝え合うための技能**

**話す側**

○姿勢に気を付ける（時々相手の目を見る）
○口形や声の大きさ、話す速さに気を付ける
○話題からそれないようにする。
○話の中心を考えながら話す
○友達の考えとの共通点・相違点を考える
○５Ｗ１Ｈに気をつけて話す
○話すときには理由（根拠）を述べる
○メモを活用して話す
○相手の意見に賛成か反対か立場を明確にした後、根拠を述べる。
○根拠を述べるときは、自分の体験や経験、知っていることなどを具体的にあげると分かりやすい
○他の人の話を取り入れてよりよい案を考える

**聞く側**

○姿勢に気を付ける
○話し手の目を見て聞く
○うなずきながら聞く
○話の中心を考えながら聞く
○５Ｗ１Ｈに気をつけて聞く
○友達の考えとの共通点・相違点を考える
○話すときには理由（根拠）を述べる
○メモを活用する
○分からないところは後で質問する
○聞いた後で感想を述べる
（相手の人権を侵害する非難をしてはいけない）
（根拠が明確な批判はよい）

**司会**

○「話し合う話題」「内容」を明確にする
○話し合いの目的を明確にする
○話題からそれたらもとにもどす
○できるだけ全員の意見を聞く
○話の中心に気をつける
○５Ｗ１Ｈに気をつける
○根拠を明確にしながら、進行する。
○メモを活用する。
○参加者の意見の共通点、相違点を考える
○様々な意見を受け止め整理する
○最後に結論をまとめる
○参加者に決定事項を確認する

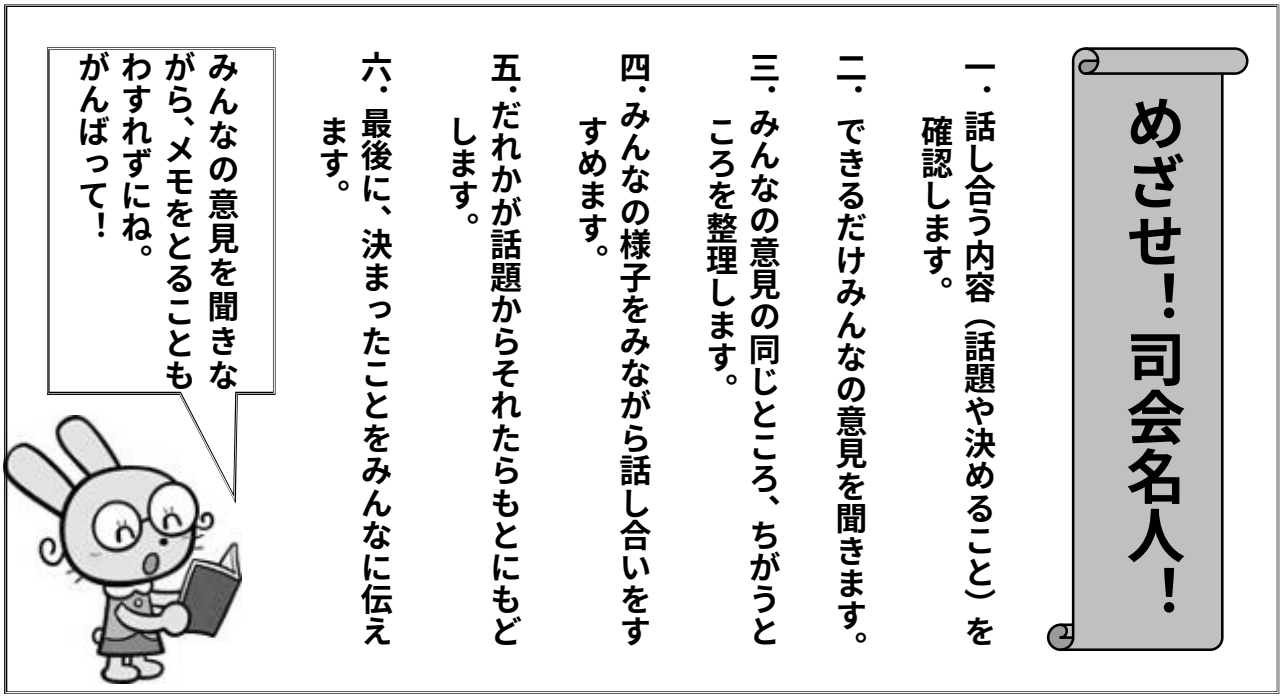
**共通事項**

○話の中心に気を付ける
○意見の共通点・相違点を考える。
○５Ｗ１Ｈに気を付ける
○根拠を明確にする
○メモを活用する

これら一つ一つの技能を児童がしっかりと身に付けることができるよう、きめ細かな指導を行い、伝え合う力を高めることができるよう迫りたい。

### (5) 技能を身に付けさせるための掲示資料

伝え合う力を高める授業を行う際、児童の視覚に訴える掲示資料の活用は重要な意味を持つといえる。また、掲示資料の活用により、児童自身での学習の振り返りが可能となり、次第に話し方や聞き方の技能を身に付けていくものと考える。そこで、話す・聞く際の視点、話し合いを進行するための司会の技能を明確にした掲示資料を作成した。




以上のような掲示資料を活用しながら、児童の視覚に訴え、児童自身が学習の振り返りを行い、伝え合うための技能を身に付けていくような授業実践を行いたい。

## (6)　各学年における教材の系統

前記したように、本領域の指導内容は系統的・段階的に上の学年につながっていくことを基本としており、その系統性が重視されている。そこで、教材における系統性を明確にし、細やかな技能指導を行うため、下の表を活用したい(表３)。

表３　「話すこと・聞くこと」に関する教材の系統表

| | 教材名・主な学習事項（学習指導要領との関連） | | |
|---|---|---|---|
| | 4～7月（話すこと･聞くこと） | 9月（話すこと･聞くこと） | 1月（話すこと･聞くこと） |
| 一年 | はる<br>◎挿絵を見て知らせたいことを選び、先生や友達に分かるように話す。（話・聞ア）<br>たんけんしたよ、みつけたよ<br>◎学校を探検して知らせたいことを選び、友達に分かるように話す。（話・聞ア）<br>すきなもの　おしえて<br>◎尋ねたいことが相手によく分かるように話す。（話・聞ア）<br>◎大事のことを落とさないようにしながらよく聞く。（話・聞イ） | みんなに　しらせたい　こと<br>［はっきり　はなそう］<br>◎みんなに話したいことを選び、話の順序を考えながら友達に分かるように話す。（話・聞ア）<br>◎話の大事なことを落とさないように興味をもって聞く。（話・聞イ） | わたしは、なんでしょう<br>・当ててほしいものの特徴を聞き手に分かりやすく話す。（話・聞ア）<br>・友達の大事なことを落とさないようにして、興味をもって聞く。（話・聞イ）<br>◎分からないことや詳しく聞きたいことを尋ねたり、それに答えたりする。（話・聞ウ） |
| 二年 | ともこさんは　どこかな（６月）<br>［だいじな　ことを　おとさずに、話したり　聞いたり　しよう］<br>◎迷子が探し出せるように迷子の特徴となる大事なことを選び、順序よく話す。（話・聞ア）<br>◎迷子の特徴を聞き落とさないように、注意して聞く。（話・聞イ） | あったらいいな、こんなもの<br>［友だちに分かるように　話そう］<br>◎「あったらいいな」と思うものについて話す順序を考えて、相手に分かるように話す。（話・聞ア）<br>・「あったらいい」ものの名前や形などを落とさずに聞き、分からないことは質問する。（話・聞イ）<br>◎「あったらいい」ものについて話し合って考えを深める。（話・聞ウ） | 何に見えるかな<br>［すすんで話したり聞いたりしよう］<br>◎「何に見える」「なぜ、そう見える」という話題に沿って話し合う。（話・聞ウ） |
| 三年 | 道あんないをしよう<br>［じゅんじょが分かるように、話したり聞いたりしよう］<br>◎道案内で大切なことを考え、相手に正確に伝わるように順序よく適切な言葉遣いで話す。（話・聞ア）<br>◎話の中の大事な言葉や順序に気をつけて聞く。（話・聞イ） | 「分類」ということ<br>［進んで話し合い、発表しよう］<br>◎「分類されているもの」を見つけ、分類のしかたやその意味について、聞き手によく分かるように筋道を立てて話す。（話・聞ア）<br>○話の中心に気をつけて聞き、自分の感想をまとめる。（話・聞イ）<br>◎「ねこの分類」について、互いの考えの相違点や共通点を考えながら話し合う。（話・聞ウ） | 名前をつけよう<br>［考えを整理して話し合おう］<br>◎互いの考えの相違点や共通点を考えながら、合意点を見つけようとして進んで話し合う。（話・聞ウ） |
| 四年 | 伝言はまちがえずに<br>［大事なことを落とさずに話したり聞いたりしよう］<br>◎相手に用件が伝わるように、大事なことを落とさず、筋道を立てて適切な言葉で話す。（話・聞ア）<br>◎大事なことを確かめながら聞き、短い言葉でメモを取る。（話・聞イ） | 「伝え合う」ということ<br>［調べて発表しよう］<br>◎クラスの友達に自分の考えが分かるように筋道を立てて話す（話･聞ア）<br>◎話の中心に気をつけて聞き、自分の感想をまとめる。（話・聞イ）<br>・友達の発表と自分が調べたことや考えたことを比べて、感想を発表する。（話・聞ウ） | 話し合って決めよう<br>［よりよい意見にまとめよう］<br>◎友達と互いの考えの相違点や共通点を理解しながら、決めるために進んで話し合う。（話・聞ウ） |
| 五年 | インタビュー名人になろう<br>［話の組み立てや言葉づかいを考えてたずねよう］<br>◎目的や内容を明確にし、相手に応じた言葉遣いでインタビューをし、話しての答えを予想しながら話の内容を聞く。（話・聞イ） | 人と「もの」との付き合い方<br>［伝え合って考えよう］<br>○調べた内容や感想が、クラスの友達に分かりやすく伝わるように組み立てを工夫して話す。（話・聞ア）<br>◎発表者の考えと、自分の考えとを照らし合わせ、話題のとらえ方の違いや共通点を明確にしながら聞く。（話･聞イ） | 「失敗」をめぐって<br>［意見を整理しながら、目的に向かって話し合おう］<br>◎話し合いの目的や順序を確かめながら、話題に沿って話し合う。（話・聞ウ） |
| 六年 | 学級討論会をしよう<br>［相手の意図を聞き取り、自分の主張を伝えよう］<br>○話し手の主張を、その理由を考えながら聞き、自分の考えと比べる。（話・聞イ）<br>◎討論会の進行方法を理解し、自分の考えや理由をはっきりさせて討論会に参加する。（話・聞ウ） | みんなで生きる町<br>［共に考えるために伝えよう］<br>◎調べたことがクラスの友達に分かりやすく伝わるように工夫して発表する。（話・聞ア）<br>○話し合いを通してみんなの考えをよりよいものに練り上げる。（話・聞ウ） | 今、わたしは、ぼくは<br>［聞く人の心に届くように発表しよう］<br>◎小学校生活を振り返って思うことを、相手や場面に応じた適切な構成で話す。（話・聞ア）<br>○友達の話を聞き、エピソードから意図を聞き取る。（話・聞イ） |

(平成20年度　大謝名小学校　校内研修会　より)

Ⅵ　検証授業

# 国語科学習指導案

日　時：平成21年１月19日（月）
学　級：宜野湾市立大謝名小学校　４年３組
　　男子18名　女子15名　計33名
授業者：多和田　晴香
講　師：吉　浜　幸雅

1　単元名　よりよい意見にまとめよう～「話すこと・聞くこと」の技能指導を通して
2　教材名　話し合って決めよう
3　単元目標
◎合意点を見つけようとして発言し、話し合いによって物事を決める楽しさを知る。
○友達と互いの考えの相違点や共通点を理解しながら進んで話し合うことができる。(話・聞)
○グループでの話し合いに、積極的に参加することができる。（関心・意欲・態度）
○その場の状況や目的に応じた適切な音量や速さで話すことができる。(言語)
○相手やその場の状況に応じて丁寧な言葉で話すことができる。(言語)

4　単元について
(1)　教材観
　本教材は、児童が協力しあって意思決定を図るための話し合い方や話し合いの仕方を学ぶためのものである。話し合いにおいて意見や主張の異なる者が一つの意思決定を目指して話し合うことは、そうたやすいことではない。このような活動は難しさを自覚したうえで取り組む必要がある。さらに話し合いの学習は、誰がどんな発言をし、どんな流れになるのかを事前に予測するのは難しい。従って学習の成果を実際の話し合いの様子に求めても、その時々の状況によって流れが異なるためうまくいかない。このような学習で大切なのは実際に行われた言語活動を、どれだけ適切に振り返ることができるかということである。そのため他学年の話し合いを見学する活動や、クラス内で互いの話し合いの様子を見学し合うという活動を通して、その都度、自分ならどうするかということを考えさせることが重要である。高学年の話し合いの仕方を見学するという活動を通して、話し合いにありがちな問題点と対処の手立てを具体的なモデルとして示したい。
　また、本教材の活動で最も重要で難しい役は司会である。司会は、議論の流れを調整しながら論点を明らかにしたり、意見をまとめたりしなければならない。このような役割を四年生に求めることは難しいが、司会の重要性はしっかりと自覚させたい。話し合いにとって重要な視点として①この話し合いは何をどうすることが目的か、②参加者の意見の共通点や相違点は何か、③意思決定するために解決しなければならない問題は何か、④問題解決の条件や糸口はどこにあるか、⑤今進んでいる話し合いは目的に合っているか、等があげられる。このうち、本教材では①②の視点をしっかりと身に付けさせたい。③～⑤については、教師が把握しておき、適宜支援するようにしたい。また、本教材は中学年までの話し合う活動の総まとめである。これまでは、身近な話題に沿って話し合う活動が組織され、児童の関心は話題そのものに向かっていた。本教材では、話し合い方そのものに学習の中心を置き、意思決定の求められる場では、どんな点に気をつける必要があるかを十分理解させることが、伝え合う力を高めることにつながると考える。

### (2)　児童観

本学級の児童は明るく仲がよいが、話すことに関しては、個人差が大きい。自分の思いを意欲的に表そうとする児童が多いが、その際は、聞き手との関わりを考えるというよりも一方的に自分の思いを話すという様子が見受けられる。一方、なかなか自分の思いを表現することができない児童もいる。最近では、自我意識の発達に伴って、クラスの友達の意向を意識した発言も多くなってきた。つまり自分の発言が級友にどう受け止められているのかを意識して話すようになってきたのである。

そこで、「話すこと・聞くこと」に関するアンケート調査を実施したところ、以下のような結果になった。まず、「話すことは好きですか」という問いに関して全員が「好き(73%)」「どちらかといえば好き(27%)」と答えたことから児童は話したいという思いを持っていることが伺える。ところが、「自分の意見や考えを話すことは好きですか」となると「好き(21%)」「どちらかといえば好き(33%)」と答えた児童は減少する。また、「おしゃべりは好きだが、人前だと緊張してどう話したらいいのか分からない」「上手に話せるかが心配」「声を出せるかが心配」という意見があった。このことから話の内容の組み立てや話す際の態度等技能面の指導が必要であることが伺える。次に「聞くこと」に関してであるが、「話を聞くことが好きですか」という問いに関して「好き(64%)」「どちらかといえば好き(15%)」と答えた児童の割合が多い。ところが、「話を聞くときメモをしていますか」という問いに関して「よくする(９%)」「どちらかといえばする(30%)」など、その割合は半分以下になる。このことから話を聞く際への技能面の指導も必要であることが伺える。さらに「話し合うこと」に関しては、「友達と話し合いながら学習することは好きですか」という質問に対して70%の児童が、「好き」「どちらかといえば好き」と答えている反面「意見を言う時不安になりますか」という質問に関してもほとんどの児童が「なる(48%)「どちらかといえばなる(24%)」と答えている。その理由として「みんなに聞こえるような声を出せるか」「考えをまとめることができるか」などが挙げられている。

児童の実態として、話すこと、聞くこと、話し合うこと全てに対して意欲的ではあるが、そのことに対する技能が伴わないことへの不安があるという課題が見受けられる。このことから「話す・聞く」「話し合う」ことに対する技能指導が重要であると捉えられる。

### (3)　指導観

本教材は、話し合い方を身に付けるものである。話し合いの学習では、だれがどんな発言をし、どんな流れになるのかを事前に予測するのは難しいため、このような学習で大切なのは実際に行われた言語活動をどれだけ適切に振り返ることができるかということである。自分達の話し合いがどれだけ適切に行われたかを児童自身が振り返ることができることが最も望ましいが、本学級の児童にそれを求めることは難しい。そこで、他学年の話し合いを見学する活動や、実際に自分たちも練習のために話し合うという活動を通して、その都度、自分ならどうするかということを考えさせていきたい。

さらに、練習のために話し合いを行うだけでなく、互いに自分達の話し合いを見学し、見学を通して感じたことを話し合ったり、他学年の話し合いを見学し、その話し合いの様子について話し合ったりするなど、教材のあらゆる場面で「話し合う」という活動を取り入れる。

また、本学級の児童の実態として、話を聞くことは好きだが、メモを取るという技能面が定着していないという課題が挙げられる。他学年の話し合いを見学する際や互いの話し合いの様子を見学し合う際、友だちと話し合いを行う際等、隋所に大事なことはメモをとるという活動をいれることにより、その技能も高めたい。

## 5　単元において児童に意識させる5つの視点

| | |
|---|---|
| 相手意識 | ○グループの友だち、クラス全員 |
| 目的意識 | ○話し合いの練習をしながら話し合いの方法を身に付ける。 |
| 場面意識 | ○グループでの話し合い　○クラス全員での学びあい |
| 方法意識 | ○友達との共通点や相違点を考えながら話し合う |
| 評価意識 | ○話すときに、話題からそれず、自分の考えをはっきりさせたり、仲間の考えを取り入れて話すことができたか。<br>○自分の考えと友達の考えとの相違点や共通点を聞き取ることができたか。 |

## 6　指導計画

| 次 | 学習内容 | 時 | 主な学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|---|---|
| 一 | 単元のめあてを持つ。 | 1<br>1/7<br>(水)<br>5校時 | 1　話すこと・聞くことゲーム１<br>反応なしよゲーム<br>(１)ペアになり、ゲームを行う。<br>①聞き手は全く反応しないで会話を行う。<br>②普段通り会話を行う。<br>(２)ゲームの感想を伝え合う。<br>2　クラス全員で感想を伝え合う。<br>・聞き手の相手の反応が大切であること | ・ゲームを通して相手への思いやりや聞く際の態度、姿勢の重要性を実感させる。<br>・話し手、聞き手の両方を経験させる。<br>・ペアで伝え合いを行う。<br>・全員での伝え合いを行う |
| | | 2<br>1/8<br>(木)<br>3校時 | 1　話すこと・聞くことゲーム２<br>紙コップで大発見！<br>(１)紙コップを見て気付いたことをグループで話し合う。<br>(２)各グループごとに発表する。<br>2　クラス全員で感想を伝え合う<br>・見つけた全ての物に根拠があること。<br>・気持ちを伝えることは大切であること<br>・人との伝え合いで分かることがたくさんあること | ・色がついている等といった単純な発見でもよいことをおさえる。 |
| | | 3<br>1/9<br>(金)<br>2校時 | 1　話すこと・聞くことゲーム３<br>伝言ゲーム<br>(１)メモを活用せず、ゲームを行う。<br>(２)メモの取り方を学習する。<br>(３)メモを活用し、伝言ゲームを行う。<br>2　クラス全員で感想を伝え合う。<br>・話を聞く時はメモをすることが重要である | ・長い文を短時間で伝えていくゲームを通してメモの必要性を実感させる。 |
| | | 4<br>1/13<br>(火)<br>4校時 | 1　「話す・聞く」技能について学習する。<br>話し合いの仕方について研究しよう<br>(１)グループで話し合う<br>(２)クラス全員で学習する。<br>2　司会の技能について学習する。<br>(１)グループで話し合う<br>(２)クラス全員で学習する。 | ・５W１Hについておさえる。<br>・第１時のワークシートを振り返る。(話の中心・いつ・どこで・だれが・何を・どうした)<br>・基本話型を思い起こさせる。<br>（○さんと同じです）共通点<br>（なぜなら○だからです。）根拠<br>・日頃の話し合いを振り返らせ、司会の技能を考えさせる。 |
| 二 | 話し合い方について学習する(１) | 5<br>1/14<br>(水)<br>5校時 | 1　５年生の話し合いの様子を見学する。<br>2　見学した感想を五年生に伝える(代表数人) | ・内容面についてさがせるようにさせる。<br>・見学して気付いたことは、メモさせる。<br>（ボードの準備） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 6<br>1/15<br>(木)<br>2校時 | 1　５年生の話し合いを見学して上手な話し合い方について新たに分かったことを伝え合う。<br>(1)グループで伝え合う。<br>(2)グループで話し合い、特によい二つを選ぶ。<br>(3)各グループの意見を全員でまとめる。<br><br>2　司会の仕事について新たに分かったことを伝え合う。<br>(1)グループで話し合う。<br>(2)グループで特によいと思う二つを選ぶ。<br>(3)各グループの意見を全員でまとめる<br>3　次時の話し合いに向けて準備する。 | ・メモを活用して話ができるようにする。 |
| 三 | 話し合い方について学習する(2) | 7<br>1/16<br>(金)<br>5校時 | 1　自分のめあてを決める。<br>Bグループ…話し合う側としてのめあて<br>Aグループ…観察する側としてのめあて<br><br>2　話し合い方について学びあう。<br>話し合いのテーマ<br>学年文庫の名前を決めよう！<br>Bグループ…テーマについて話し合う。<br>Aグループ…見る視点を明確にし、話し合いを観察する。<br><br>3　話し合いの様子について伝え合う。<br>Aグループ…話し合いを見学して気付いたことを述べる。<br>Bグループ…感想を聞き、分かったことをメモする。<br><br>4　今日の学習を振り返る。 | ・話し合いグループと話し合いを観察するグループのめあての違いを明確にする。<br><br>・気付いたことは記録させる。<br>・聞いたことはメモさせる。<br><br>・感想発表の際にも話す側、聞く側の技能を意識させる。 |
| | | 8<br>本時<br>1/19<br>(月)<br>5校時 | 1　自分のめあてを決める。<br>Aグループ…話し合う側としてのめあて<br>Bグループ…観察する側としてのめあて<br><br>2　話し合い方について学びあう。<br>話し合いのテーマ<br>みんながたくさん本を読む方法を考えよう<br>Aグループ…テーマについて話し合う。<br>Bグループ…見る視点を明確にし、話し合いを観察する。<br><br>3　話し合いの様子について伝え合う。<br>Bグループ…話し合いを見学して気付いたことを述べる。<br>Aグループ…感想を聞き、分かったことをメモする。<br><br>4　今日の学習を振り返る。 | ・話し合いグループと話し合いを観察するグループのめあての違いを明確にする。<br><br>・気付いたことは記録させる。<br>・聞いたことはメモさせる。<br><br>・感想発表の際にも話す側、聞く側の技能を意識させる。 |
| 四 | 単元を振り返る | 9<br>1/20<br>(火)<br>3校時 | 1　自分たちの話し合いを振り返り、分かったことを文で整理する。<br><br>2　単元を振り返り、分かったことを伝え合う。 | ・話す側、聞く側、司会の技能を整理させる。 |

## 7　本時の指導

### (1)　本時のねらい

友だちと意見交流を行い、よりよい話し合い方について気付くことができる。

### (2)　授業仮説

話し合いを練習する場面において、話し合い方について相互交流を行うことにより、よりよい話し合い方についての考えを深めることができるであろう。

### (3)　展開(8/9)

| 離 | 学　習　活　動 | 指導上の留意点・教師の支援 | 形態 | 評価規準 | 準備 |
|---|---|---|---|---|---|
| 導入 | 1　学習内容を確認する。<br><br>2　学習のめあてを確認する。<br>今日のめあて<br>1　グループのみんなに聞こえる声で話す。<br>2　相手の目を見て話す（聞く）<br>3　話し合いには意欲的に参加する。<br>4　メモをとる。<br>5　話の中心を決めて話す（聞く）<br>6　友だちの意見と同じところをくらべながら話す（聞く）<br>7　友だちの意見とちがうところをくらべながら話す（聞く） | ○前時の内容を想起させる。<br>○今日の学習の見通しをもたせる。<br><br>○話し合う際の態度関するめあてと、話す内容そのものに関するめあてを明確にする。 | 一斉 | | めあてカード |
| 展開 | 3　話し合い方について学び合う。<br>(1)話し合い活動<br>Aグループ…「みんながたくさん本を読む方法を考えよう」というテーマのもと、司会を中心に話し合いを行う。<br>Bグループ…見る視点を明確にし、話し合いを観察する。<br><br>4　アドバイスタイム<br>B グループ…話し合いを観察した感想を述べる。<br>A グループ…感想を聞き、自身の話し合い方について振り返る。<br><br>5　アドバイス紹介タイム<br>・新たに分かったことをクラス全体で伝え合う。 | ○これまでの学習を振り返り、話し合い方や司会の仕事について確認する。<br><br>○話し合う側、観察する側のめあてを記入させる。<br><br>○Bグループには、気付いたことをメモしながら観察させる。<br><br>○Aグループには、感想を聞きながらメモする重要性にも気付かせる。<br><br>○グループごとにアドバイスを受けたことを発表させる。<br>○アドバイスを受け、今後どうするのかについて考えさせる。 | グループ<br><br>グループ<br><br>一斉 | 【話・聞】伝えたい相手と伝えたい事柄をはっきりさせて選ぶこと。<br><br>【話・聞】相手に分かりやすく話そうとすること<br><br>【話・聞】相手や目的に応じて敬体と常態との表現を使い分けること<br><br>【言】グループ内、クラス内など状況に応じて適切な音量や速さで話す。 | 話し合い用ワークシート<br><br>アドバイス用ワークシート |
| まとめ | 6　今日の学習を振り返る。<br><br>7　次時の予告 | ○７つのめあてをふりかえり、めあてが達成できたかについて拍手の大きさで表現させる。<br><br>○アドバイスしたいこと、されたことについての改善策をみんなで考えていくことをおさえる。 | 一斉 | | |

### (4)　評価

友だちと意見交流を行い、よりよい話し合い方について気付くことができたか。

## 8　検証授業研究会

### (1)　授業者の反省

①　児童から「意見を整理していないから話し合いがうまくいかなかった」「司会がもっと流れを整理して進行するべきである」という、話の内容についての実感を伴った感想が聞けるようになったことは本授業に取り組んだ成果だと思う。

②　単元を通して「伝え合うこと」への子どもたちの意識は高まりつつある。

③　「課題を自分のものとして捉え、真剣に話し合う」「自分の言葉で議論する」という意義のある伝え合いを児童にさせたいと思い本授業に取り組んだが、児童の思いを受け止め、なおかつ意図する方向に授業を展開することの難しさを感じた。

④　話すための技能の獲得を児童自身が自分の課題として捉え、今後の生活で少しでも生かすことが出来るよう、つなげていきたい。

⑤　児童の思いや考えを引き出し、更にそれを意図する方向へ導く力をつけることが今後の大きな課題である。

### (2)　意見及び感想

①　児童が今日するべきことをしっかりと把握できていた。日頃の学級経営がしっかりしており、児童との信頼関係ができているからであろう。

②　掲示物等が工夫されており、あらゆる方向からテーマに迫ろうとしている様子が見受けられた。

③　掲示物を通して子ども達の意見を取り入れて授業を展開している様子が感じられた。

④　今後、掲示資料や技能指導の成果を多くの場で活用していくことも考えてほしい。

⑤　児童の意見を取り入れようとする新しい試みの授業であった。

⑥　児童の意見や感想で授業のまとめがあらゆる方向に向かう、いわゆる「オープンエンド」の授業に挑戦したことに大きな意義がある。

⑦　５つの言語意識を指導案に記載するなど、理論として学んだことを指導案や授業に活用していることがよい。

Ｑ１：話し合いのテーマを「みんなが本を読む方法を考えよう」に設定した意図は何か？

Ａ１：今回は話し合い方そのものを学ぶことが目的なので、テーマそのものに関心が向きすぎず、更に興味を持つことのできる内容に設定した。

Ｑ２：場の設定として11人で一つのグループというのは、多すぎたのではないか

Ａ２：話し合いの中で、互いに意見を言い合い本音で言い合うという場を意図的に設定するためには、今回の人数が必要であった。

### (3)　指導助言（沖縄県立総合教育センター主任指導主事　吉濱　幸雅）

①　国語が楽しいと感じることのできる授業展開であった。

②　児童の持つ力を発揮させ、言葉の力を付けようとする様子がみられた。

③　話し合いにおける技能を教え込む形の指導は容易だが、それでは児童が技能の重要性を実感することはできず、実感することがなければ真の意味でその技能を身に付けることは出来ない。児童自身にその重要性を感じさせようと取り組んだ今回の授業の意義は大きい。

④　基本話形の指導を更に徹底する必要がある。「付け加えます」「同じ考えです」という基本的な話し方があり、そこに付随する形で更に意義深い話し合いが出来るようになるであろう。

⑤「言語で考え言語で話す」という当たり前のことを全教科で取り組み、話すことへの訓練を徹底することが重要である。

⑥　形式だけの伝え合いではなく、意義があり意味のある伝え合いを今後も続けてほしい。

## Ⅶ 仮説の検証

研究の基本仮説について、児童の行動観察やワークシート、自己評価及び検証前後の実態調査等をもとに検証する。検証授業を行うにあたり、指導計画全９時間の授業仮説を以下のように立てた(表４)。授業仮説に基づき、２つの具体仮説について分析・考察を行う。

表４　本単元における各時間の授業仮説

| 単元名 | よりよい意見にまとめよう<br>―「話すこと・聞くこと」の技能指導を通して― |
|---|---|
| 第１時 | ○身近な話題についてペアで話をする場面において、相手が反応する場合としない場合の両方を体験することにより、話し合いにおける態度の意義を感じることができるであろう。 |
| 第２時 | ○紙コップの特徴を述べ合う場において、全ての特徴には根拠があることを知ることにより、些細な意見にも意義があるということを知ることにができ、伝え合うことの楽しさや意義を感じることができるであろう。 |
| 第３時 | ○伝言ゲームを行う場面において、メモを活用しない場合と活用する場合を比較することにより、伝え合いにおけるのメモの意義を感じることができるであろう。 |
| 第４時 | ○話し合い方について話し合う場面において、自分の考えを伝えたり、友だちの意見を聞いたりすることにより、話し合いにおける技能について考えることができるであろう。 |
| 第５時 | ○５学年の話し合いを見学する場面において、話し合いの技能や司会の技能について考えることにより、話し合いにおけるよりよい技能について考えることができるであろう。 |
| 第６時 | ○５学年の話し合いを見学して気付いたことを伝え合う場面において、多様な意見を知ることにより、話し合いの技能、司会の技能についての考えを深めることができるであろう。 |
| 第７時 | ○話し合いを練習する場面において、話し合い方について相互交流を行うことにより、よりよい話し合い方についての考えを深めることができるであろう(1) |
| 第８時 | ○話し合いを練習する場面において、話し合い方について相互交流を行うことにより、よりよい話し合い方についての考えを深めることができるであろう(2) |
| 第９時 | ○学習を振り返る場面において、話し合いにおける技能や司会の技能について話し合うことにより、話し合いにおける技能の意義を感じ、伝え合うことへの意欲を持つことができるであろう。 |

具体仮説①
「自分なりの考えを伝え、伝え合う力を高める」ために行った技能を身に付けさせる取り組みをもとに分析・考察を行う。

具体仮説②
「伝え合うことの喜びや楽しさを感じ、伝え合うことへの意欲を高める」ために、行った取り組みをもとに分析・考察を行う。

### 1 具体仮説①の検証

話し合いにおける話し方や聞き方などの技能を身に付ける取り組みを充実させることにより、その技能を生かして自分なりの考えを伝えることができるようになり、伝え合う力が高まるであろう

〈技能を身に付けさせる取り組み〉

#### (1) 話し合いにおける態度の重要性への気づき

検証前の実態調査から、「話し合いの時に難しいこと」として「話の仕方を考えること」という意見があった。具体的には態度面に関すること内容面に関することに分けられた。そこで、ペアになり、相手がどんな話をしても反応をしないで聞くという活動を行うことにより、話し合いにおける態度の意義を感じさせようと考えた。活動後、児童から話し合いにおいて大切なこととして「目を見る」「うなずく」等、姿勢や態度に関する意見が出された(表５)。

話し合いにおける態度は、相手を尊重する思いがあって初めて意義をなすものである。児童の感想から、伝え合うために相手を尊重することと、それを基盤とした態度の重要性の双方を感じているものと思われる(表６)。さらに、本時以降ほぼ全ての時間に設定した話し合いの場において、自ら相手に質問したり、目を見て話すよう声をかけ合ったりする様子がみられるようになった。

表５　「反応なしゲーム」による気づき

| |
|---|
| ○相手の目を見る<br>○うなずく<br>○笑顔で話す<br>○姿勢に気をつける<br>○ゆっくりはっきり話す<br>○質問する　　等 |

表６　「反応なしゲーム」における感想

| |
|---|
| ○一生けん命話をしても反応がないと悲しかった。相手の立場がよく分かった。<br>○目をみてくれないと悲しい。ぼくは目を見て話を聞こうと思った。<br>○相手の反応がなかったらいやだった。これから話を聞く時はうなずこうと思います。<br>○相手がしつ問してくれたから、もっと話そうという気持ちになった。だから、話し合いの時には、わたしもしつ問しようと思った。 |

### (2) メモすることとその活用

話し合いにおける技能の一つとして「メモの活用」があげられるが、実態調査によると日頃のメモの活用はほどんど見られなかった。そこで、伝言ゲームを行いメモの必要性を感じさせようと考えた。まず、メモをさせずにゲームを実施したところ、各グループの答えが一致せず、スムーズに伝言を行うことが出来なかった。そこで、これを解決する方法としてメモを活用させながらゲームを行った。しかし、メモを充分に活用することができず次の児童へ的確に伝えられない児童がおり、諍いがおこる場面があった。これは、伝える側の「メモを取る」技能と、抗議をした側の「分かりやすく伝える」という技能が、それぞれ身に付いていなかったためだと考えられる。しかし、ほぼ全グループで確かな伝言内容になり、児童からは歓声があがった。

また、本時以降の話し合いの場において、発言者をイニシャルで表記し、意見を整理しながら聞くなど、メモを活用しながら話し合いを行う様子が見られるようになった。このことから、伝え合う力を高めるために技能指導をきめ細かく行うことは重要であると言える。児童の感想からメモの意義を感じたと思われる(表７)。

表７　伝言ゲームにおける感想

○メモをしたらメモをしないより人に伝えやすいと思った。
○メモをとりながら話すと間ちがいがへって、とても不思議でした。
○メモを取ると覚えやすくて相手にも話しやすくて、とてもいい方法だと思った。
○メモをしないと聞いたことを忘れてしまうので、これからは電話を取る時や人と話すときもメモを用いていきたいです。

意見が整理されたメモ

### (3) 話し合いの方法

話し合いにおける技能をさらに深めるため、「話し合い方を研究しよう」というテーマのもと、技能について話し合った。態度面に関する様々な意見とともに、「はじめ･中・終わりを決める」「内容を工夫する」「相手に伝わるように話す」等の意見があげられた(表８)。このことから、技能の工夫の必要性を感じ始めていることが分かる。そこで、伝言ゲームにおける諍いを話題にあげ、「分かりやすく伝える」という技能についてもおさえた。その後、五学年の話し合いを見学する活動を通して「言いたいことを決めてから言う」「意見を言う時は理由をつけた方がいい」『「賛成」「反対」などの表現が分かりやすい』という技能に関する意見がみられるようになった(表９)。その際、伝え合いにおける五つの意識(相手意識等)についてもおさえた。

表８　「クラスでの話し合い」からの気づき

○身ぶり手ぶりを入れる
○表じょうに気をつける
○間をあけて話す
○「はじめ」「中」「終わり」を決める
○内容を工夫する
○相手に伝わるように話す　　等

表９　「五年生の話し合い見学」からの気づき

○順じょよく話す
○文を最後までしっかり言う
○できるだけ細かく話す
○言いたいことをしっかり伝える
○意見を言う時は理由をつける
○反対と言う時も理由を言う　等

五年生の話し合いを見学する様子

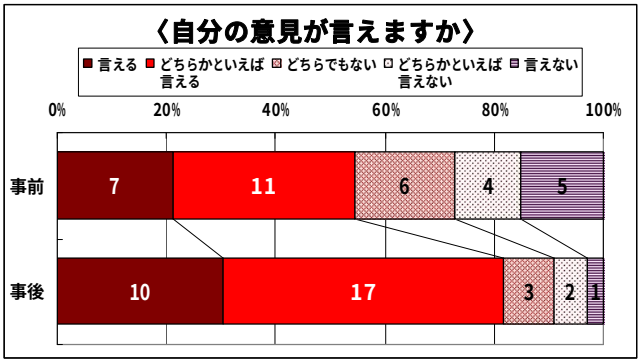



図５　技能面についての変容

### 〈検証前後の実態調査から〉

図５は、話し合いにおける技能に関する児童の実態について検証前後を比較したものである。検証授業後、「意見が言える」「どちらかといえば言える」という児童は合わせて 18 人から 27 人に増加している。検証前の実態調査において「話し合いの時に難しいこと」として「話の仕方を考える」が挙がっていたことを考えると、話し合いにおける技能が身に付いたことが児童の自信となった結果であると捉えられる。

以上のことから、話し合いにおける話し方や聞き方などの技能を身に付けさせる具体的な取り組みを行った結果、児童は身に付いた技能を基にして、伝えたいことが伝えられるようになってきた。そのことが自信となり、自分の意見が言える児童が増えてきた。つまり、伝え合う力が高まりつつあると考えられる。

## 2 具体仮説②の検証

身に付けた技能を生かして自分なりの考えを伝えたり、多様な交流を通して仲間と学び合ったりすることにより、伝え合うことの喜びや楽しさを感じることができるようになり、伝え合うことへの意欲が高まるであろう。

### 〈自分なりの考えを伝え、交流を通して仲間と学び合い、伝え合う喜びや楽しさを感じる取り組み〉

#### (1) 思いを自由に伝え合うことの重要性への気づき

話し合いにおいて児童が気になることとして、「自分の意見がまちがっていないか」ということがあった。そこで、どんな意見でも重要であるとする自信につなげるため、紙コップの特徴について気付いたことを発表する活動を行った。初めは戸惑い気味だった児童も、時間の経過とともに「内側が白い」「ざらざらする」「丸い」等、素直に考えを述べるようになった。その後、「内側が白いのは中の飲み物の色が分かり、おいしそうに見えるからではないか」「周りがざらざらするのは、すべらないためだと思う」「丸くしているのはつかみやすくしたためだと思う」等、その意図に対する考えが述べられていった。紙コップの些細な特徴にも全て意図があり、互いの発言から様々な気付きが得られたことを通して、児童から「何でも意味があるんだね」「話し合いをするのはおもしろい」という声があがった。児童の様子や感想等から思いを伝え合うことの楽しさを感じていると思われる(表 10)。

表 10　紙コップの特徴を伝え合った感想

| |
|---|
| ○人はいろいろな意見を持っていて、いろいろなことを話してもらうと嬉しいと思った。 |
| ○友だちと同じ意見やちがう意見がいろいろあっておもしろかった。 |
| ○自分では思いつかなかったことやグループではでてこなかった意見がいっぱいあってびっくりした。 |
| ○みんなの意見を聞いたからたくさん勉強できたと思う。思ったことを言うのはおもしろいなあと思った。 |

#### (2) 五年生の話し合いを見学して学んだ技能を伝え合うこと

話し合いにおける技能を更に高めることを意図として、５年生の話し合いを見学し、学んだことをクラスで伝え合う活動を行った。初めにグループで話し合い、自分だけでは気付き得なかった技能について共に考えた。児童は、五年生の話し合いを見学する際にメモを活用しているが、再度そのメモを活用しながらグループで話し合いを行い、「文を最後まで言っていたよ」「ああ！なるほど！」と、仲間との話し合いを通した新たな気付きに興奮する様子や、『話を始める前に「賛成」と言っていたから分かりやすかった』「そうだった！」と、共感し、喜ぶ様子が見られた。児童の様子から、学び合いを通して分かる喜びや伝え合う楽しさを感じていると考えられる。次に、各グループから２つずつ、五年生の話し合い活動を見学して学んだことを出し合い、グループでの気付きをクラス全員で共有化させた。児童の感想から、伝え合うことの喜びや楽しさを感じていると思われる(表 11)。

五年生を見学して学んだ技能を話し合う様子

表 11　五年生を見学して学んだ技能を伝え合った感想

| |
|---|
| ○友だちの話を聞いて、文を最後まで言うと分かりやすいということが分かった。 |
| ○みんないろいろなことに気づいていると思った。意見を聞くのはおもしろい。今日分かったことを使おうと思う。 |
| ○メモをとるとか、理由を言うとかいろいろなことが分かっておもしろかったです。このことを使ったら話が上手になると思います。 |

### (3)　話し合いの方法を学び合うこと

話し合いにおける技能を定着させるために、単元の後半において、学んだ技能を使って実際に話し合いを行い、その様子について相互交流を行った。「言いたいことがよく分からない」「司会はもっとみんなの意見を整理してほしい」等という意見があがった。また、メモを取る様子や、メモを活用しながら意見を述べる様子も多く見られた。さらに、発言者の発言内容の意図を司会者が理解できず、話し合いが止まってしまったグループがあったが、そのグループの児童からは、「意見が整理できていなかったから話し合いが止まったと思う」という根拠の明確な意見が挙げられた。このことから、本単元の学習を通して「話す内容の整理」の重要性を実感していると同時に、「根拠をもって意見を述べる」という話し合いの技能を駆使して発言していると考えられる。これまでの授業では、話し合い方について考える機会が少なかったように思う。児童の感想から、児童自身が話し合いにおける技能を意識していること、更にそれを基盤として新たな伝え合いへの意欲を持っており、話し合い方についての学習は重要であると考えられる(表 12)。

表 12　話し合いの方法を学び合った感想

| |
|---|
| ○友だちが「理由をいっていたから分かりやすい」と言ってくれた。これからも、意見を言う時はちゃんと理由を言おうと思った。<br>○自分で話をしている時は、よく分からなかったけど、友だちからアドバイスをもらうともっと話し方を工夫しようと思った。<br>○司会がみんなの話を整理してほしいと言われて、司会の仕事って大変だと思った。たくさん練習したい。<br>○ぼくの意見が整理できてなくて話し合いが止まってしまったので、次からはちゃんと整理して話をしたいです。 |

話し合いの方法を学び合う様子

**〈検証前後の実態調査から〉**

図６及び図７は話し合いに対する児童の意識を検証前後で比較したものである。

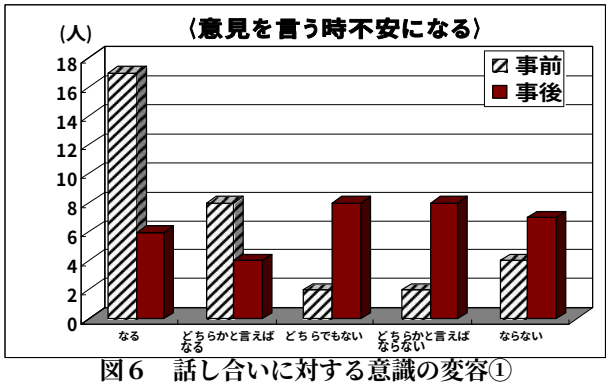



図６　話し合いに対する意識の変容①

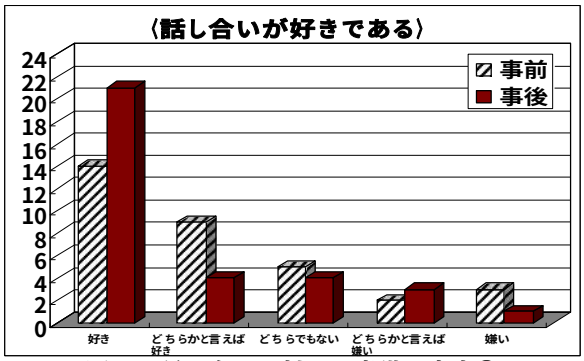



図７　話し合いに対する意識の変容②

図６及び図７から分かる通り、「意見を言う時不安になる」と「どちらかと言えば不安になる」いう児童を合わせると、事前25人から事後10人に減少した。また、「話し合いが好きである」と「どちらかと言えば好きである」という児童を合わせると22人から25人に増加した。これは、今回、話し合うという活動を多く取り入れたことにより話の仕方を考えることや伝え合うことへの不安が少なからず取り除かれたことを示しており、きめ細かな技能指導を行った成果であると考えられる。また、技能を基に伝え合いを行いたいという児童の意欲は高まっており、それは単元を終えた児童の感想からも捉えられる(表 13)。

表 13　単元を終えた児童の感想

| |
|---|
| ○前は話し合いが苦手だったけど、今は少し好きになりました。人の話を聞いたりするのは自分では知らなかったことが分かったりするからおもしろいです。<br>○この２週間で、理由をつけて話した方が聞き手に伝わりやすいし、分かりやすいということが分かりました。二週間前はなぜ理由を付けて話さないといけないのかと思ったけど、今はそのわけがよく分かります。これからも人と伝わるような話し合いをしたいです。 |

以上のことから、児童は技能を生かして自分なりの考えを伝えたり、多様な交流を通して仲間と学び合ったりすることにより、伝え合うことの喜びや楽しさを感じていると同時に、伝え合うことへの意欲が高まっていると言える。これらの意欲を基盤とし、今後児童が生活においても様々な伝え合いを行うようになり、児童の伝え合う力が更に高まることを期待したい。

## Ⅷ　研究の成果と今後の課題

### 1　研究の成果

(1)「話すこと・聞くこと」の領域において、技能指導を明確にした指導計画を立て、実践したことにより、児童が話し合いにおける技能や伝え合うことに興味を持つようになった。

(2)　話し合いにおける細やかな技能指導を行ったことにより、児童が相手の立場や気持ちを尊重することができるようになった。

(3)　多様な交流(ペア、グループ、クラス、異学年)を行うことにより、伝え合うことの良さや楽しさを感得し、伝え合うことへの意欲に高まりがみられた。

(4)　掲示資料の活用により、児童自身での学習の振り返りが可能となり、次第に話し方や聞き方の技能を身に付ける様子が見られた。

### 2　今後の課題

(1)　「話すこと・聞くこと」の領域における段階的・系統的な指導の工夫

(2)　「話すこと・聞くこと」の領域や他教科における基本的な話し方、聞き方の指導の工夫

(3)　伝え合う力を高めるための学習指導の工夫及び授業改善

### 3　おわりに

半年間の研究を進める中で、理論研究や授業実践等においてはもちろんのこと、たくさんの方々との出会いや様々な経験を通して、本当に多くのことを学ぶことができました。教師として、人としてこの経験は今後､学校現場で子どもたちにも伝え得るかけがえのない大きな財産となりました。

このような機会を与えて下さいました宜野湾市教育委員会の先生方ならびに優しく見守って下さった当究所所長の長崎光義先生､いつも温かく励まして下さった大謝名小学校校長の多和田稔先生、研究所への入所を勧め、常に応援して下さった教頭の本村律子先生に心から感謝申し上げます。

また、本研究を進めるにあたり、県立総合教育センター主任指導主事の吉浜幸雅先生には、研究内容について大変丁寧にご指導いただいたと同時に、今後の授業実践や教師としてのあり方など、言葉で表せないほど多くのことを教えていただきました。お忙しい中、常に快くお時間を作って下さり、数々の指導助言を下さいましたことに深く感謝申し上げます。さらに、当研究所研修係長の田場勝先生には、研究に関わることはもちろん、子どもたちとの関わり方や学級経営に関すること等たくさんのことを教えていただきました｡常にあたたかく見守り､やさしく心配りをして下さり、懇切丁寧にご指導下さったことに心から感謝申し上げます。

また、いつも声をかけ、あたたかく応援して下さった大謝名小学校職員の皆様、検証授業に快く協力してくださった西原久美子先生と比嘉美奈子先生、及び５年１組と４年３組の子ども達に心から感謝申し上げます。

最後に、いつも気遣い応援して下さったはごろも学習センター適応指導教室の西川賢先生、共に研究に励み、励まし合い、様々なことを共有し合った同期研究員の上原直子先生、はごろも学習センターのスタッフの皆様に心よりお礼申し上げます。有り難うございました。

多くの皆様のお力添えで研究を進めることができましたことに深く感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

〈主な参考文献〉


・文部科学省　『小学校学習指導要領』『小学校学習指導要領解説　国語編』　平成２０年
・小森　茂　著　『「伝え合う力」の育成と音声言語の重視』　明治図書　１９９９年
・木下美和子著　『「伝え合う力」を育てる国語科授業の創造』　明治図書　２００６年
・堀江祐爾　著　『国語科授業再生のための５つのポイント』　明治図書　２００８年
・井上一郎　著　『話す力・聞く力の基礎・基本を育てる－小学校－』　明治図書　２００８年